

未来への投資

すべての人にブロードバンドを

光ファイバ…ガラスやプラスチックの細い繊維でできている通信ケーブル。非常に高い純度のガラスやプラスチックが使われており、光をスムーズに通す構造になっている。光ファイバのケーブルは、電気信号を流して通信するメタルケーブルと比べて**1**信号の減衰が少ない**2**長距離のデータ通信が可能**3**信号の漏れを遮断しやすいため大量に束ねても相互に干渉しない**4**通信速度が格段に速い—といった特長がある。

【不可能を可能にする3つのカラクリ】

カラクリ 「最大」という言葉の意味

1 最大16億円。この金額は、事業の下準備に当たる「基本設計」で算出された金額だ。想定される最大の単価で計算されており、今後本格的に組む「詳細設計」で実際に即した金額に直される。現時点ではどれくらい安くなるかは不明だが、複数業者による見積単価を採用したり、経済比較をしたり、最終的には入札を執行することで、さらに減額されると見込んでいる。

カラクリ 県の補助金と合併特例債

2 この事業には「静岡県光ファイバ網整備推進事業費補助金」が適用される。補助率は事業費の4分の1。基本設計の金額で計算すると、4億円が県補助金で賄われる。また「合併特例債」という、合併した自治体に認められる有利な債権が使える（新町建設計画に基づく事業のみ）。これは事業費の95%まで借りられる国の借金。返済は利子を含めた返済額の70%を地方交付税の算定基準額に上乗せされるため、町の実質的な負担は残りの30%となる。これにより町支出の金額は約3.6億円。これを年2,500万円ずつ、15年かけて返済する見通しを立てている。

計算式 16億円×25%（2.5割）＝4億円 【県補助金】
12億円（県補助金を差し引いた分）×70%＝8.4億円 【合併特例債】
12億円－8.4億円＝3.6億円 【町が支出するお金】

カラクリ 削減を見込む経費がある

3 本事業によって削減を見込める町の経費がある。本庁舎と総合支所、文化会館、観光協会を結んでいる光ファイバの年間賃借料の300万円、出先機関を含めたインターネット料金の年間340万円、郵送料や電話料の一部なども削減できると見込んでおり、削減額は年間約1,000万円にのぼる。これらを差し引くと、町が本事業のために支出する金額は、年間約1,500万円となり、決して実現不可能な金額ではなくなるのだ。

※カラクリ2には期限がある 県の補助金は、平成24年度以降も確実にあるという保証はない。また合併特例債の期限は、合併後10年間。本町では、平成26年までとなっている。補助金、合併特例債とも本事業の大きな財源。逆に言うと、この2つの資金がなければ本事業の実施は非常に困難といえる。

は進められている。
すべての人に光の恩恵を
決して、簡単にできる事業ではない。町内には3,000を超える世帯がある。民間の事業所なども数え切れないほどある。これらに光ケーブルを引き込み、すべての人が「光」の恩恵を受け

られるよう告知放送端末機を設置。全域で高速インターネット環境を構築しようとするもの。年間予算が約77億円（平成22年度）の本町にとって、最大16億円を投じるこの事業は、町を挙げての一大プロジェクトといっても過言ではない。現在までに、「茶業や林業など、もつとほかに考える課題、優先す

べき事業があるのではないか」という意見も多数寄せられているのが現状だ。
「最大16億円」。途方もない金額に思えてしまう。この山あいの小さな町で、本当に実現できることなのだろうか。実はここには、不可能を可能にする「3つのカラクリ」があったのだ。

町がやる。2

chapter
計画の全容

本町で生活するすべての人が「光」の恩恵を受けられるよう町が主体となって町全域に整備する光ファイバ網のネットワーク。
小さな町の大きな挑戦の、その全容は。

光ファイバ網整備は合併時の主要プロジェクト

「情報通信基盤整備事業住民説明会」という、少し難しい名前の説明会が8月から10月にかけて各地区で開催された。
これは町が計画を進めている情報通信基盤（光ファイバ網）の整備について、その目的や概要、将来の活用方法などを住民の皆さんに説明し、理解してもらおうとい

う趣旨で開いたもの。
担当課職員が各地区に出向いて、「町全域に光ファイバ網を整備して、各世帯や事業所を光ケーブルでつなぎ、高速インターネット環境を構築しよう。光ファイバ網を利用して、高齢者への健康福祉や住民全体の生活支援（見守り、健康相談、買い物支援）などに活用していきたい」と、町が掲げる方針を説明した。
現在（10月上旬）までに、ほぼ

全地区で説明会を実施。多くの住民が説明に耳を傾けた。
旧町の合併時に策定された「新町建設計画」。この計画の主要事業として位置付けられていた光ファイバ網の整備は現在まで、工法の検討や関係機関との折衝・調整を重ねてきている。
町が整備し、町が所有する光ファイバ網。民間事業者が提供する高速インターネットサービスより、低料金で利用できるよう計画

本当に実現できるの？ 町が主体の光ファイバ網って。